

富田林市下水道事業経営戦略（素案）の概要

1. 経営戦略改定の目的

「経営戦略」は、公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。その中心となる「投資・財政計画」は、施設・設備に関する投資の見通しを試算した計画（投資試算）と、財源の見通しを試算した計画（財源試算）を構成要素とし、投資以外の経費も含めた上で収入と支出が均衡するよう調整した中長期の収支計画です（経営戦略ガイドライン改訂版）。

本市では令和元年 10 月に「富田林市下水道事業経営戦略」を策定しました。今般、目標年次の中間に当たる 5 年目を迎えることや、新型コロナウイルス、物価高騰等の社会経済情勢の変化を受け、令和元年度に策定した経営戦略を改定するものです。なお、計画期間は、令和 7(2025)年度～令和 16(2034)年度の 10 年間としています。

2. 将来の事業環境

① 水洗化人口の予測

・「国立社会保障・人口問題研究所」で公表されている人口推計データに基づき人口を予測しました。令和 16(2034)年度には、水洗化人口は約 85,867 人となる見通しです。（図 1）

② 有収水量の予測

・令和 16(2034)年度の有収水量は約 20,980m³/日と、現状の約 78%となる見通しです。（図 1）

③ 使用料収入の見通し

・使用料を据え置いた場合、令和 16(2034)年度の使用料収入は、上記の年間有収水量予測結果に比例して減少し、約 9 億 9 千万円となる見通しです。

④ 施設の見通し

・現有管路のうち、経年化管路は約 11%ですが、全く更新事業を実施しない場合、10 年後には約 26%となります。

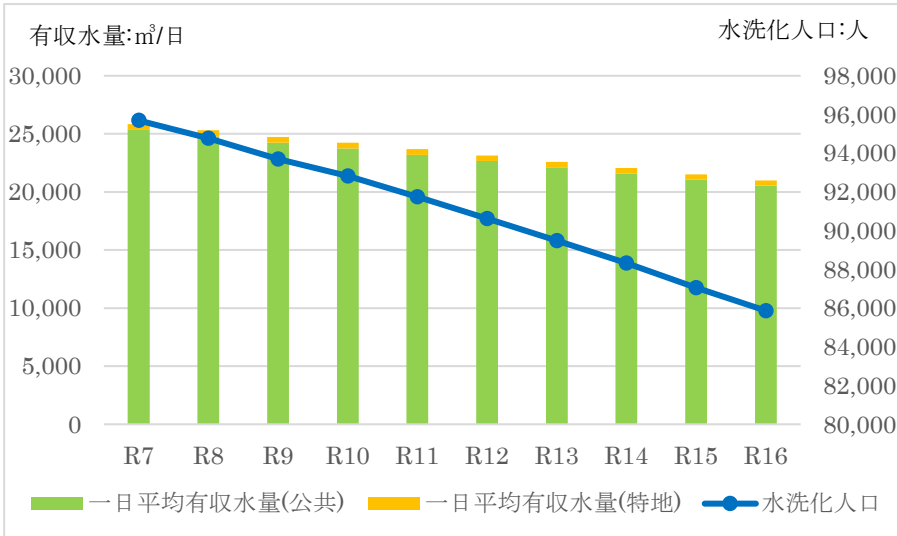


図 1 富田林市の有収水量と水洗化人口予測

3. 経営戦略

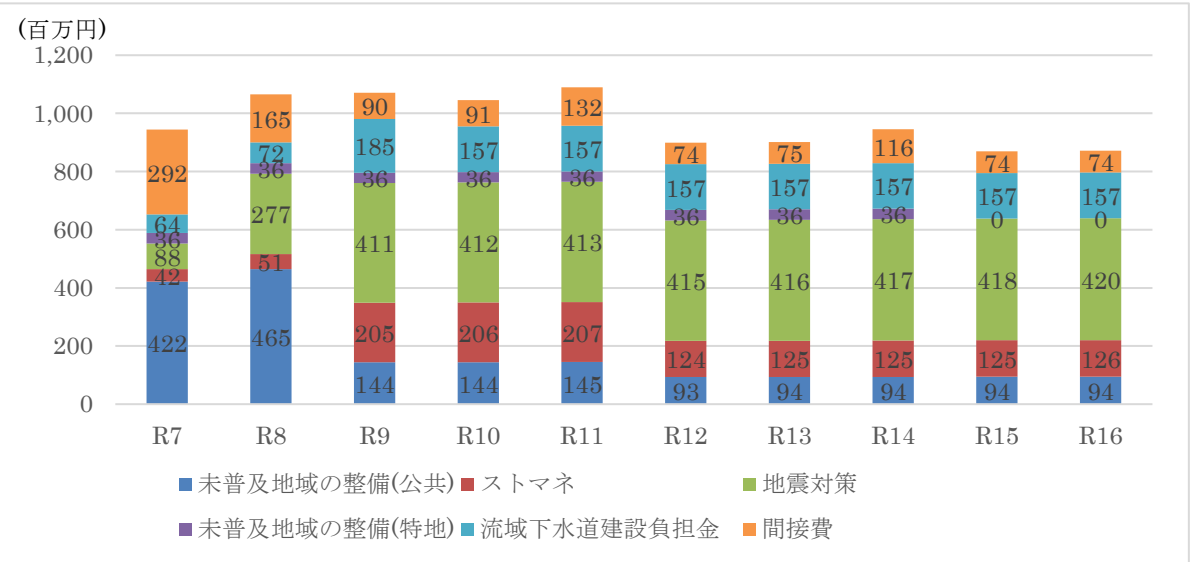
経営戦略では、「投資試算」と「財源試算」の収支均衡を図る必要があります。収支均衡の定義は、計画期間内で黒字となることです。ここでいう黒字は、事業を安定的に継続するために必要な施設・設備に対する投資を適切に見込んだ上での黒字となります。また、安定的に事業を維持出来ることが望ましいとされています。

① 投資試算

下水道施設の新規整備については、未普及促進を中心に事業を進めます。老朽化対策については、ストックマネジメント計画に基づく管更生を進めるとともに、地震対策事業では狭山処理区の水管橋の地震対策や緊急輸送道路下の下水道管の耐震化を行います。

表 1 投資計画

区 分		概 要	R7～R16 総額
未普及地域の整備	下水道	下水道整備区域における下水道の整備	約 17.9 億円
	浄化槽	浄化槽整備区域における浄化槽整備	約 2.9 億円
防災・安全事業	ストックマネジメント計画	老朽管の管更生	約 13.3 億円
	地震対策	水管橋や下水道管の地震対策 マンホールトイレの設置	約 36.9 億円
流域下水道建設負担金		府流域下水道の建設に係る市町村負担金	約 14.2 億円
間接費		建設投資に必要な事務費等	約 11.8 億円
合 計			約 97.0 億円



富田林市下水道事業経営戦略（素案）の概要

② 財源試算

(1)現状使用料水準での財政シミュレーション

- 現状使用料水準で、シミュレーションした場合の見通しを以下に示します。
また、シミュレーションでは基準外繰入金は見込んでいます。
- 令和 10(2028)年度以降、支出が収入を上回り赤字となる見通しとなりました。
 - 合算会計での経費回収率は令和 10(2028)年度以降 80%を下回り、令和 16(2034)年度では 60.6%となりました。
 - 資金残高は、令和 10(2028)年度と令和 11(2029)年度に減少し、その後は概ね一定値を推移しました。

➡ 「投資試算」と「財源試算」にギャップが発生

(2)経営戦略に基づく財政シミュレーション

「投資試算」と「財源試算」の収支ギャップを改善するため、使用料水準の適正化及び投資の合理化等を検討し、財政シミュレーションを行いました。なお、推計期間は、令和 7(2025)年度～令和 16(2034)年度（10 ヶ年）とします。

表 2 財政シミュレーション結果

項目		説明
使用料収入		31%増とする必要がある
基本 条件 充足	経営状況（経常収支比率）【目標：100%以上（推計期間全てにおいて黒字経営維持）】	100.7%
	資金残高	2.5 億円
	経費回収率 【目標：80%以上】	80.8%

図 2 収益的収支の推移

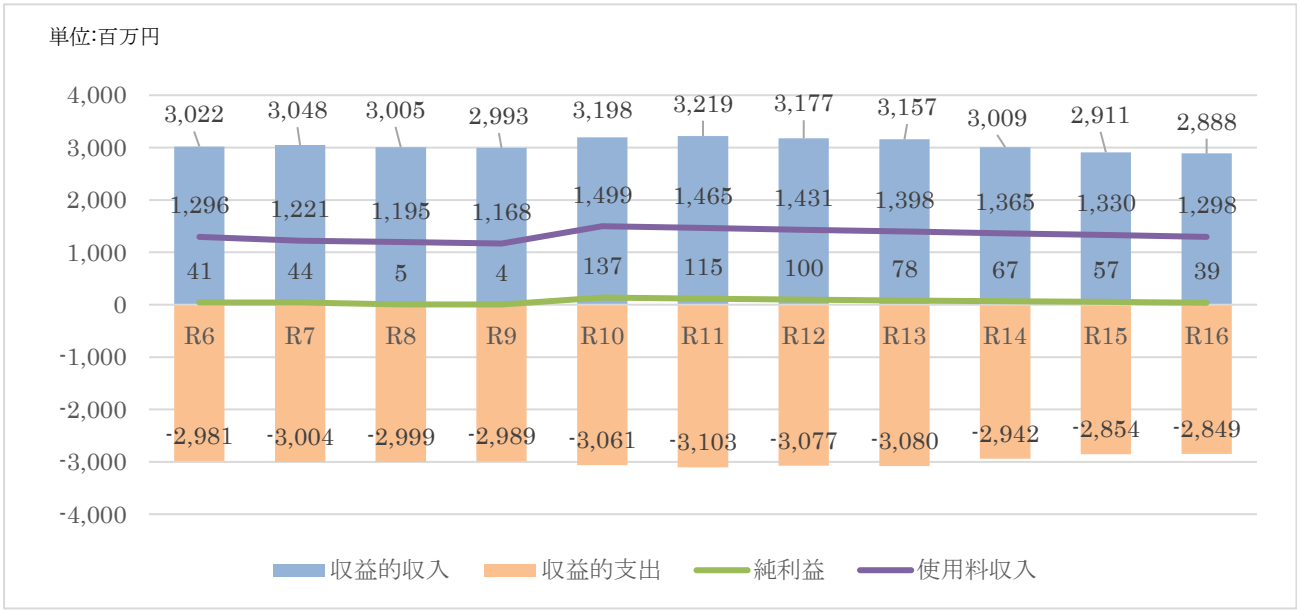


図 3 資本的収支の推移

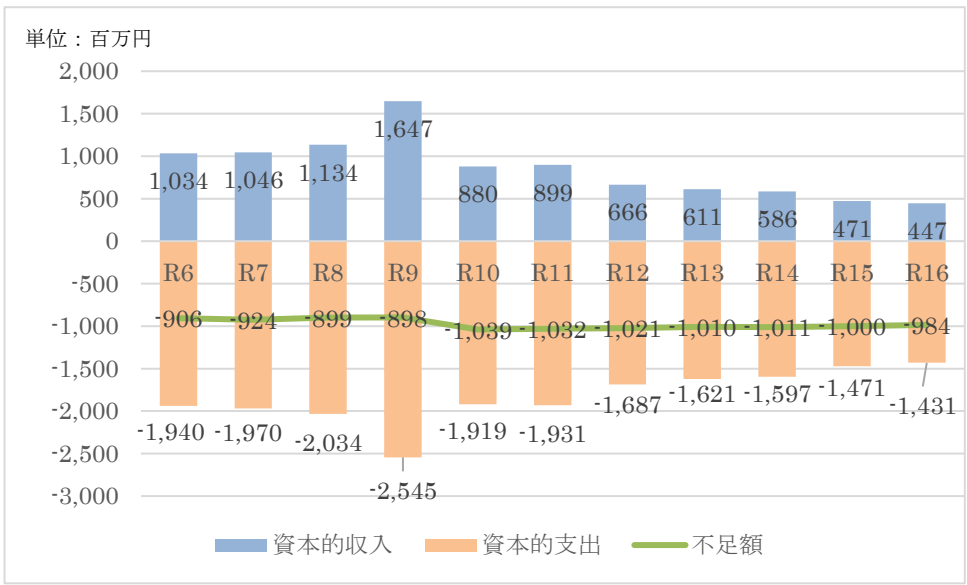


図 4 企業債残高等の推移

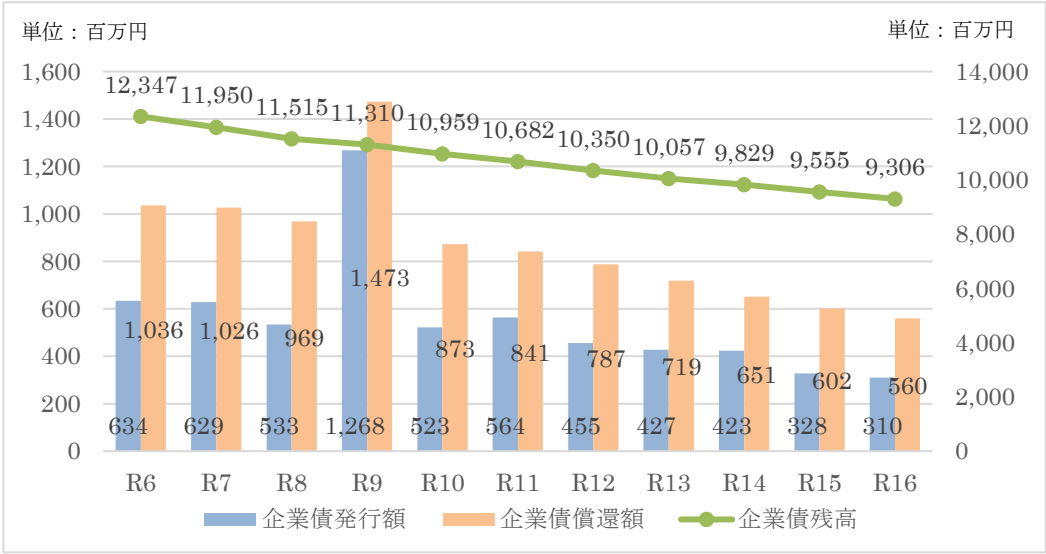


図 5 経費回収率の推移

